

## 2016 年度 PC 実技第 2 問

／早速、始めたいと思うんですが、先ほど何人か会員の方にお話を伺っていて、実はこの要約筆記という意味疎通のコミュニケーション手段は私、初めて知ったんですけれども。新聞記者にですね、求められている能力と非常に似ているなという感じを受けています。それは2つありまして1つは新聞記者の仕事というのは、取材はもちろん、半分、仕事を占めているんですが、取材したことを要約するという事なんですね。

で、今、私、関西大学で教えてまして、総合情報学部というところで半分ぐらいが、マスコミ関係を志望している学生さんを教えているんですが、マスコミに行きたい人に実習なんかをさせるわけですね。そのとき、いつも言っているのは、あの私たち、いろんなニュースの媒体を新聞であったり、テレビであったり、あるいは最近はネットが多いと思いますけれども、そういうものを利用しているわけなんですけれども、そこに書かれている情報とは、すべてが要約なわけなんです。どういうことかという、新聞を読めば世界、日本社会、あるいは世界がわかるような気になるんです。テレビを見てると世界がわかった気になるんですが、そこに映し出されているものは情報の中のほんの一部でしかないんですね。

で、記者が例えば取材をするとき1つの記事を書くときに、最低だいたい1時間は取材をします。だいたい、めどは1時間です。実際には、もっと長い場合もありますけれども最低1時間ぐらいは取材して書いているわけですね。で、みなさんも人と話していればわかるように、1時間人と話をする。人の話を聞けば、そこに出てくる話というのは実は情報というのは膨大になるんですね。で、しかし、記者が書く記事というのは長くても1000字くらいです。もうちょっと長い場合がありますが、だいたい1000字以内。短い記事だと今朝の新聞を読まれた方は、ベタ記事というのをいくつかご覧になっていると思うんですね。1番短い記事です。あとで説明します。で、それはだいたい150字から100字ぐらいのものです。短いものでいうと。1時間話を聞いて150字にまとめるわけですね。で、何よりもまず難しいのは1時間話を聞いた中で、そこから150字分で伝えられるものを情報をどこに絞るかということなんです。で、これは、すべての記事がそうです。長い記事になれば今度は一週間とか、場合によっては1カ月、半年かけていろんなことを取材するわけです。本も読むし人にも話を聞く。で、そこで集まる情報は膨大なんですね。あの、1冊本が書けるぐらいに取材するわけです。ところが、実際に記事に書けるのは連載記事だとしても、せいぜい何千字の世界ですよ。ということは、ほとんどの情報は捨てなきゃいけないんです。何かを書くということは、何を捨てるか何を残す

かという、ある意味 究極の選択です。で、それを、長い記事の場合は、割と時間が、締切が先ですけれども、速報だとか日々の毎日書いているようなニュースというのは時間との闘いで、すぐ選ばなきゃいけない。ネットに流すような最近の速報でいうと、取材しながら頭の中で取捨選択していくわけです。で、40分ぐらいですかね。せいぜい。聞き終わって40分ぐらいで原稿第一稿を出す。

その中でやっているのは、実は取材というより取材したことの取捨選択なわけです。で、まさに要約ですよ。要約というのは、結局、何を捨てるのか。大事なものは、あの捨てちゃいけないんだけど、その中で一番大事なことを残して雑音とか、ノイズみたいなものは捨てる。あるいは場合によっては、大事だけでも、これは伝えられる枠があるので捨てるを得ない。こういうことをやっていることになりますね。で、そういう意味では、非常に、なんて言うか共通性があるんだと思います。つまり取捨選択をするということと、非常に限られた時間の中で、みなさんの場合は、もっと同時的にやらなければならないんでしょうけども、新聞記者も常に時間との闘いの中でそれをやっているんだと。つまり要するに要約して人々がわかりやすいように書いているんだと、そういう意味では、非常に似てると思いました。あの今回、私、ご指名いただいて、どこまで役に立つか不安だったんですが、ちょっとお話を伺って、非常に何というか、話をしても意味があるんじゃないかと思った次第です。